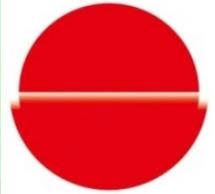


Niigata Award News

(食の新潟国際賞財団通信)



Niigata Award

2024/8/15 第52号(受賞者決定特集号)

第8回 佐野藤三郎記念 食の新潟国際賞 受賞者決定！

大賞はグントール ヴェンカタ スバラオ氏、ケイト・ケランド氏の2名が受賞

世界各国から多数の推薦

第8回食の新潟国際賞は昨年9月～12月までの応募期間に世界8ヶ国から49名という多数の推薦応募を頂きました。今年5月16日に選考委員会(委員長 唐木 英明)が開催され、各賞の受賞候補者を複数選出し、理事会に答申しました。その結果、理事会において4賞、6名の受賞者が決定しました。

また、7月19日に国内受賞者4名も出席して受賞者発表記者会見が行われました。なお、表彰式は11月20日(水)に開催されます。

大賞＝グントール ヴェンカタ スバラオ氏(インド)

世界の食の問題解決への顕著な貢献 1件 賞状、正賞(記念工芸品)、副賞 500万円(複数受賞のため分配)



グントール ヴェンカタ スバラオ氏
(国研)国際農林水産業研究センター
生産環境・畜産領域 主任研究員

国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター 生産環境・畜産領域 主任研究員

○ 受賞理由 :

現代の農業における窒素肥料の大量使用は温室効果ガスの排出源ともなっている。その原因となる土壌での硝化活動(N_2O の生成)は、特定の植物の根から放出される物質により抑制されることを世界で初めて発見し「生物的硝化抑制」(BNI)と命名した。さらに、抑制効果の高い小麦の品種改良により、BNI強化小麦を実用化した。これにより、窒素肥料の大量投入の抑制と収穫量確保の双方が実現。土壌の硝化抑制により環境負荷の低減につながり、世界の持続可能な農業と環境保全の実現に多大な貢献をした。

○ 主な活動・研究について :

窒素肥料は現代農業に欠かせないが、施用した窒素の多くは、土壌中の硝化菌の活動により流出し、環境と生態系に問題を引き起こしている。受賞者は、植物の持つ「生物学的硝化抑制(BNI)」(根が特定の物質を放出して硝化菌を抑制する)を発見し、この機能を野生コムギから導入することで、BNI強化コムギの開発に成功した。BNI強化コムギは窒素肥料を効率よく使用しながら高収量が期待できるため、窒素肥料使用量を半減でき、コムギ生産からの環境負荷の低減に向け、世界的な注目を浴びている。

○ 受賞コメント :

この度は、栄誉ある「食の新潟国際賞」大賞を賜り、心より感謝申し上げます。

私たちの研究チームは、2000年から「生物的硝化抑制(BNI)」の研究に取り組んでまいりました。この研究は、農地からの窒素肥料流出問題に端を発しています。調査研究の結果、窒素肥料を栄養源とする土壌細菌が、現代農業で使われる窒素肥料を一方向的に消費し、一酸化二窒素や硝酸態窒素に変換され、温室効果ガスや地下水汚染等、環境に悪影響を及ぼしていることを明らかにしました。

私たちは、2003年に植物の根から放出される物質が、土壌細菌を抑制できることを発見し、この機能を「BNI」(Biological Nitrification Inhibition)と名付けました。そして2021年、この「BNI形質」を持つ野生コムギ近縁種(オオハマニンニク)との属間交配により、高収量コムギに導入することに成功しました。

この「BNI強化コムギ」は、窒素肥料の使用量を30-50%削減しつつ、従来品種と同等の収量を実現できます。これは、環境負荷を低減しながら食料生産を維持するという、現代農業の課題解決に大きく貢献する可能性があります。

今後、私たちは「第2の緑の革命」の実現に向けて邁進してまいります。1960年代にノーマン・ボーローグ博士が主導した「緑の革命」から60年以上が経過しており、今日では高い生産効率と環境に配慮した持続可能な農業への転換が求められています。日本で発見されたBNI機能、その技術を応用したBNI強化コムギは、世界の様々なコムギ生産地域で導入準備が進んでおり、「第2の緑の革命」の礎となることが期待されています。

この受賞を励みに、今後も持続可能な農業と食料安全保障の実現に向けて研究を続けてまいります。ありがとうございました。

大賞＝ケイト・ケランド氏(英国)

世界の食の問題解決への顕著な貢献 1件 賞状、正賞(記念工芸品)、副賞 500万円(複数受賞のため分配)



ケイト・ケランド氏
感染症流行対策イノベーション連合
(CEPI) 首席科学ライター

感染症流行対策イノベーション連合(CEPI) 首席科学ライター

○ 受賞理由 :

ロイター通信の記者時代に、除草剤「グリホサート」(商品名・ラウンドアップ)に「おそらく発がん性がある」としたIARC(国際がん研究機関=WHOの下部組織)の評価をめぐる、IARCの研究者に不正があったことを裁判資料等から明らかにして報道。IARCが科学的根拠を無視した発がん性評価をしていたことを明らかにし世界の注目を浴びた。この報道は欧米での訴訟や承認に影響を及ぼした。除草剤の使用は大規模な農業では不可欠で、各国の農業生産に大きな影響を与える。農業にかかわる分野での、科学的な根拠に基づく正確な情報の重要性を調査報道により示した画期的な出来事となった。

○ 主な活動・研究について :

将来の疾病発生に備えることの重要性や、CEPIの科学的パートナーシップについてのプレゼンテーション、スピーチ、社説、記事を書いている。また、現在、人類に最も重大な脅威を与えるウイルスの家族についての記事シリーズも執筆している。このシリーズ『The Viral Most Wanted』はCEPIのウェブサイトで公開され、vaccineswork.comなどの他のメディアでも配信されている。2021年にCEPIに参加する前は、ロイターの特派員を務めており、ほぼ27年間のジャーナリズムキャリアの最後の12年間はグローバルヘルスと科学をカバーしていた。彼女の報道は、感染症の流行からワクチン、診断および治療法、がん、慢性疾患およびメンタルヘルス、環境および農業科学に至るまで幅広い分野にわたっていた。

○ 受賞コメント :

この名誉ある賞を受賞させていただき、本当にありがとうございます。

私は、この食の新潟国際賞大賞(グランプリ)が科学ライターやジャーナリストに授与されたのは初めてだと思います。このような素晴らしい賞をいただき、非常に光栄で感謝しております。特に、私の推薦が他のジャーナリストである平沢裕子さんからのものであったことに感謝しています。彼女とは面識がありませんでしたが、私の仕事を読んで評価してくれたのです。

食の新潟国際賞は通常、作物の収量を改善したり栄養価を向上させたりするために画期的な仕事をした科学者や研究者を表彰するものです。これらの仕事は世界中の人々に食糧を提供する助けとなっています。

今回、この賞の選考委員の方々は、科学コミュニケーション、情報、および誤情報が人々の健康に関する意思決定にどれほど重要な役割を果たしているかを時宜にかなった形で認識しています。

私たちは、誤情報が瞬間に広がり、それが同様に危険である時代に生きています。このため、科学を伝える人々が科学の誠実性を守ることが、私の見解ではさらに重要です。なぜなら、科学に関する誤情報や誤った伝達は、公共の健康に実際の長期的な脅威をもたらす可能性があるからです。ワクチンに関する誤情報がワクチンへの躊躇を引き起こし、予防接種率を低下させ、防げる病気が広がって命を奪うことになることは誰もが知っています。同様に、特定の食品や特定の種類の食事の健康への影響についての主張は、人々を混乱させたり疑心暗鬼にさせたりし、不健康な選択をさせることがあります。

私の一連の調査報道の中心にある除草剤グリホサートの文脈では、科学に関する誤情報や隠蔽が混乱と恐怖を引き起こし、それが個人および公衆の健康に影響を及ぼしています。最終的に、悪い科学と悪い科学コミュニケーションは人々を危険にさらし、政策立案者や個人が誤った決定を下すことにつながります。

この食の新潟国際賞大賞は、科学を適切に伝え、その誠実性を守ることが科学そのものと同じくらい重要であるという非常に歓迎すべき認識だと感じています。改めてありがとうございます。



左からスバラオ氏、八丁氏、別府氏、新谷氏(ケイト氏と三ツ井氏は欠席)

← 受賞者発表記者会見の様子



佐野藤三郎特別賞＝八丁 信正 氏(日本)

地域の国際交流や研究での顕著な貢献 1件 賞状、正賞(記念工芸品)、副賞 100万円



一般社団法人海外農業開発コンサルタンツ協会 会長 / 近畿大学 名誉教授

○ 受賞理由 :

地球規模での水資源の確保の重要性が急増している中、農業の開発適地の減少、開発コストの上昇、水資源の拡大の困難や灌漑農地の拡大、水資源の確保の必要性と改善・向上について研究。水資源の課題について利用効率の向上を目指したソフトウェアの開発を行い、灌漑・水管理の関わる世界に跨る情報のデータベース化を作成し、統合的な水管理と改善を図る為の情報管理システム(SIMIS)の開発を行った。イリノイ大学やFAO、近畿大学、農林水産省などでの研究活動により、国際水田・水環境学会等から数々の受賞。灌漑水管理に関する研究活動は高く評価され国際的な農業水管理の研究発展に大きく寄与した。現在、海外農業開発コンサルタンツ協会会長として若手人材育成や研究指導に貢献している。

○ 受賞コメント :

この度、栄誉ある食の新潟国際賞佐野藤三郎特別賞を授与いただき、誠に光栄に存じます。この受賞は、これまで私に国際的な活動の機会を与えていただき、支援して頂いた諸先輩方、活動の実施に協力いただいた関係者の皆様のご尽力による賜物であると感じております。ここに深く感謝いたします。また、この賞に推薦いただいた増本教授や審査頂いた選考委員、事務局の方々にも御礼を申し上げます。

国際協力の活動に本格的にかかわったのは、国連食糧農業機関(FAO)での活動だったかと思えます。そこでは、農業の水利用の改善、向上を目的として、灌漑水管理に関わる情報のデータベースを作成し、それを用いた統合的なシステム管理とかんがい水管理の改善を図るための情報管理システム(Scheme Irrigation Management Information System: SIMIS)の開発を行いました。また、初心技術者を対象とした灌漑管理訓練マニュアルを作成し、現在でも技術者訓練の実施に活用されていると聞いております。国際水管理研究所(IWMI)理事、理事長の時代には、世界中の水研究者の育成に関与するとともに、他の国際農業研究機関と協力し国際的な農業／水管理に関する研究発展に寄与できたのではないかと考えております。国際かんがい排水委員会では、長年にわたって歴史部会の部会長を務め、世界灌漑遺産事業の立ち上げや審査を支援するとともに、アジアの水の歴史の取りまとめを行いました。

また、国内の国際協力機構(JICA)、国際農林水産業研究センター(JIRCAS)等の事業実施の支援を行う国内支援委員会の委員、委員長として多くの開発事業の円滑な実施に貢献できたのではないかと考えます。

これらの国際レベルの活動に加えて、草の根レベルでの開発活動の支援も行っていました。水関係技術者を会員としたNGO水と大地と緑の会を立ち上げ、会の事務局長として17か国60地区の農村開発活動を支援することが出来ました。また、リソナアジアオセアニア財団の環境事業選考委員として、これまで多くの事業の選考、実施にかかわり、草の根レベルでの環境保全に貢献してまいりました。さらに、近畿大学を中心としたグループと国際協力機構の草の根支援事業をカンボジアで実施し、ため池を活用した乾季農業の普及を支援してきました。

世界の飢餓や貧困の問題に対しては、これまで国連を含めて多くの取り組みが行われてきましたが、その成果は必ずしも十分ではなく、戦争や環境危機と相まって、これらの問題が深刻化しております。こうした中で開発途上国の農村地域における生活水準の向上・地域社会の繁栄環境の保全の必要性はますます高くなっております。今後は、日本の農業開発コンサルタンツの活動を支援するとともに、草の根レベルでの途上国の農村地域の発展に貢献できればと考えております。

21世紀希望賞＝別府 茂 氏(日本)

発展と成果が期待される研究・活動 1件 賞状、正賞(記念工芸品)、副賞 100万円



一般社団法人 日本災害食学会 理事・副会長

○ 受賞理由 :

企業在職時から、災害が多い新潟県で「災害時の食の研究」を追求。災害食の長期備蓄という考え方から、新たに「ローリングストック」という発想を提案し、また「災害食」という新たなカテゴリーを構築した。

さらに、防災食、介護食、治療食を研究し製品化、ビジネス化に貢献。「日本災害食学会」を創設した。

現在、国際標準化機構(ISO)の作業部会で「国際認証規格」制定が進められているが、その下地には当学会が始めた「日本災害食認証制度」と、健康ビジネス協議会の「思いやり災害食認証制度」がある。

○ 受賞コメント :

賞味期間の長さの特徴とする「非常食」という従来の備え方では、乳幼児や食物アレルギーのある児童、高齢者などの食の要配慮者を救えず、また災害救援の従事者にも対応できていないことは、2004年新潟県中越大地震で被災し実感したことでした。この震災を契機に、賞味期間の長さにかかわらずに、災害時にも普段の生活でも活用するという「災害食」が生まれ、その後も続いた新潟中越沖地震、水害などの経験のなかで、災害食の考え方を多くの関係者の皆様から育てていただきました。この取り組み全体が、この度の受賞の大きな意味と感じ、大変感謝している次第です。

この度の受賞により、新しい備え方が被災者の健康を守ることにつながり、また災害多発時代を生きるための新たなライフスタイルとして、全国に拡大するきっかけになること期待しています。さらに災害の多い日本で生まれた「災害食」の考え方が、地球温暖化などにより世界中で増大する自然災害の被災者のために共有され、活用いただくことを目指して、これからも努めたいと思います。

地域未来賞＝新谷 梨恵子 氏(日本)

新潟県内での食と農への顕著な貢献 1件 賞状、正賞(記念工芸品)、副賞 100万円



株式会社 農プロデュース リッツ 代表取締役

○ 受賞理由 :

結婚を機に小千谷に居住し、新規就農してサツマイモスイーツの加工商品で起業し地域活性化に貢献している。新潟県6次産業化プランナーとして商品化・企画で新規農業者をサポートし多くの実績を上げている。

(株)農プロデュース リッツを設立しサツマイモの商品販売や農家レストランを運営し、地域の主婦を中心に障害を持つ人を雇用して農福連携にも貢献。また宿泊施設も整備してインターシップや農業研修者を積極的に受け入れ農業の人材育成を行い、施設を地域の交流拠点とし開放し、地域活性化にも貢献している。女性就農者や経営者として評価が高く多くの賞を受賞している。

○ 受賞コメント :

この度は地域未来賞を賜り、大変光栄に感じています。本当にありがとうございます。

私は東京農業大学国際農業開発学科というところを卒業し、今から24年前に小千谷市に嫁ぎました。当時からサツマイモで町おこしをしたいという思いがありまして10年間農業法人で生産・加工・販売の仕事に携わり、9年前に独立、企業しました。

現在は農カフェ経営と6次産業化のプランナーとして新潟県、福島県、群馬県、埼玉県など他県にも派遣していただいたり、農家の営業代理店として農産物を売る仕事。そして、困っている農家さんへの人材の派遣だったり、あと規格外野菜の一次加工といった仕事をしています。

9年前に独立企業した際は田んぼや畑を一切持たずに独立した前例が農業界に無く、もがき葛藤した日々だったのですが、今このような場に立てているのは地域の皆さまや応援してくれた方、そして支えてくれたスタッフや家族のおかげです。

これからの農業界や時代を担う若者の支援をしたくて、農業インターンの受け入れや職業体験の受け入れをするために、宿泊施設の完備や農家との連携、農福連携といった形で障害のある方や働きやすい職場環境の整備に努めています。

私自身東京からこちらに嫁いで「小千谷に来たからこそ夢が叶ったんだよ」と言い続けていきたいと思っています。

これから農業界に求められる課題は沢山あると思うのですが、その中でも私にできることや、そしてサツマイモをテーマに色々なことに挑戦していますので、今後もサツマイモや農業界、新潟県全体の農業を盛り上げていけるように頑張っていきます。

地域未来賞＝三ツ井 敏明 氏(日本)

新潟県内での食と農への顕著な貢献 1件 賞状、正賞(記念工芸品)、副賞 100万円



新潟大学 社会連携推進機構 特任教授

○ 受賞理由 :

令和5年新潟県は夏季の異常高温と渇水によるコシヒカリのコメの白濁化が多発して、品質低下と収量の大幅減少により大きな問題となった。三ツ井氏はイネの「澱粉分解機構の分子メカニズム」の研究で、地球温暖化による品質の低下に強い関心を持ち、高温・高CO2登熟による玄米白濁化のメカニズムを解明する研究を進めた。その結果、高温耐性を有するコシヒカリの開発に成功し、令和5年9月に「新大コシヒカリ(登録名:コシヒカリ新潟大学NU1号)」を誕生させた。実証実験で高温登熟耐性と良食味が実証され、新潟県の稲作を救う期待と貢献は大きい。

また海外研究者との交流を通じて、先端バイオ研究において活発な国際共同研究を展開し、国際連携の枠組みの中で気候変動下に於けるイネの品質向上に貢献している。

○ 受賞コメント :

この度、第8回食の新潟国際賞(地域未来賞)をいただくことができ、身に余る光栄であり、関係各位に心から感謝申し上げます。私は、イネにおける澱粉代謝制御、特に澱粉分解酵素の基礎研究を、生理・生化学的および分子細胞生物学的手法を用いて進めてまいりました。その応用として「高温に強いコシヒカリ」研究に取り組み、新大コシヒカリ(品種名:コシヒカリ新潟大学NU1号)を開発し、社会実装に一步踏み出すことができたこと、感慨深く感じています。

現在、新潟と東京の大手百貨店や和食レストランで新大コシヒカリ米が提供されています。無論、今回の受賞に至った研究成果を生み出すことが出来たのは、研究の苦楽をともにしてくれた国内外の共同研究者や学生諸氏がいたからこそであることは言うまでもありません。

今後は、このイネ新品種をさらに進化させるべく、耐塩性を含めマルチストレス耐性化させるとともに、これを用いて環境に優しい、地球に優しいコメづくりをテーマに研究開発を推し進めたいと考えています。

また、引き続き、ヨーロッパやアジアの研究者との密接な交流を通じて気候変動下における作物生産向上に貢献すべく、国際共同研究を展開してまいります。

● 正賞「シュプリンゲン」

正賞として授与されるモニュメントは第22代文化庁長官、第9代東京藝術大学学長の宮田亮平氏によって製作されたものです。

宮田氏は佐渡市出身の世界的にも著名な金属工芸家でもあります。



● 第8回食の新潟国際賞 選考委員会

(敬称略・順不同)

職名	氏名	所属・職名
委員長	唐木 英明	食の信頼向上をめざす会 代表 / 東京大学 名誉教授
委員	赤阪 清隆	(公財)ニッポンドットコム理事長
委員	今野 正義	(株)日本食糧新聞社 代表取締役会長CEO
委員	西澤 直子	石川県立大学 学長 / 東京大学 名誉教授
委員	清水 誠	東京大学 名誉教授 / 東京農業大学 客員教授
委員	生源寺 眞一	(公財) 日本農業研究所 研究員 / 東京大学 名誉教授
委員	阿部 啓子	東京大学 名誉教授 / (一社)バイオインダストリー協会 評議員
委員	平沢 裕子	産経新聞社 編集局 文化部 記者 / (一社)日本乳業協会 理事
委員	原田 惇	新潟県農業総合研究所 食品研究センター長
委員	青山 浩子	新潟食料農業大学 教授 / (公社) 日本農業法人協会 理事

● 表彰式スケジュール

第8回国際賞表彰式は11月20日(水)に開催予定

第8回目を迎える食の新潟国際賞は11月20日(水)に新潟市の朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター 国際会議室(マリンホール)で開催いたします。是非多くの方からご出席いただきますようご案内申し上げます。

※ 下記スケジュールは現段階の予定です。

開催内容が変更(延期・中止)される可能性があります。あらかじめご了承ください。

主な行事	時刻(予定)	会場
表彰式	13:30～	朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター 4階 国際会議室 (マリンホール)
受賞者記念講演	14:30～	
受賞祝賀会・交流レセプション	17:30～	ホテル日航新潟 朱鷺の間



(第7回表彰式の様子)

(朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター)

● 特別会員

亀田製菓(株)	(株)ブルボン	(学)新潟総合学園
一正蒲鉾(株)	サトウ食品(株)	新潟県農業協同組合中央会
(株)第四北越銀行	(株)栗山米菓	亀田郷土地改良区
(株)新潟日報社	(株)新宣	(株)エイケイ
亀田商工会議所	(株)新潟クボタ	NST新潟総合テレビ
にいがた22の会	(株)日本食糧新聞社	五十嵐建設工業(株)

● 正会員

新潟県信用組合	新潟工科大学産学交流会	新潟工科大学
(株)第一印刷所	(株)キタック	(株)日本旅行新潟支店
(株)本間組	北越工業(株)	(株)田中組
石本酒造(株)	丸榮製粉(株)	(医)愛仁会 亀田第一病院
(株)ミカサ	鍋林(株)ヘルスフーズ事業部	(株)ひらせいホームセンター
神山物産(株)	TeNYテレビ新潟放送網	ワタキューセイモア(株) 新潟営業所
ハセガワ化成工業(株)	(株)栗田工務店	(株)エヌエスアイ
藤屋段ボール(株)	三和薬品(株)	(株)トップライズ
(株)タケショー	松田産業(株)	(株)ウオシヨク
(株)新潟博報堂	セツソカートン(株)新潟工場	(株)ヤマダ
BSN新潟放送	東邦産業(株)	(株)新潟国際貿易ターミナル
新潟陸運(株)	麒麟山酒造(株)	八海醸造(株)
(株)新潟食品運輸	(株)加島屋	(株)荏原製作所 北陸支社
月島食品工業(株)	(株)日本フードリンク	(株)せいだ
(株)ニッポン関東支店	(株)ディモルギア	新潟医療生活協同組合
日本甜菜製糖(株)	UX新潟テレビ21	
(株)鳥梅	イカリ消毒(株)	

● 個人会員

古泉 肇	藤島 安之	和田 充彦	高畑 昭文	廣瀬 利雄	山口 勉	高橋 常考	田村 敏郎
杉本 克己	近藤 鴻	大川 秀雄	大倉 正寿	吉岡 謙一	坂田 武利	門脇 基二	大谷 勝男
佐藤 久栄	阿部 徳威	田中 作一	佐藤 和雄	大沢 一衛	佐藤 勉	大島 千春	野上 敏
渡辺 昭雄	楨坂 文晴	清水 良一	五十嵐 源一	新保 房機	古泉 榮三	佐藤 純	倉嶋 則昭
大越 斎	野口 正晴	酒井 定勝	齋藤 秀明	松本 裕志	當野 篤	高山 利夫	久保田 紳一
河瀬 三千夫	和澄 孝男	五十嵐 修	望月 健三郎	山田 雄治	鈴木 正二	竹石 松次	古泉 幸代
大森 ゆかり	高橋 慶三	阿部 昭一	渡邊 信也	赤塚 義廣	坂井 俊一	鈴木 伸作	佐藤 銀治郎
加藤 寿一	石附 由美子	斎藤 幸広	田辺 俊文	小田 静二	渡邊 徹	栗田 浩	栗田 朋子
阿部 文仁	高尾 茂典	五十嵐 豊	古泉 幸一	加藤 純子	高倉 広利	清水 泰成	阿部 愛子
宮口 澄子	五十嵐 康子	五十嵐 早苗	佐藤 文男	高橋 征男	高橋 克郎	田村 泰生	山崎 尉生
中村 雪絵	村山 浩太郎	稲葉 晋	川崎 千春	秋山 正之	松川 忠史	濱野 剛	小川 善弘
池田 祥護	星野 幸三	糸満 盛人	北垣 大介	小林 哲也	岡田 茂久	遠山 幸男	小野 隆樹
大橋 祐貴	前田 穰	桐原 隆晃	長井 基樹	岸田 良満	中村 健一	小林 宏志	柳澤 敏郎
遠藤 俊介	葉葦 正幸	津島 章彦	舟崎 義朗	小川 陽一	大日方 聡	宮下 好文	坂田 浩一
田中 雅史	藤間 佑輔	品田 卓也	渋谷 政道	村山 雄亮	北爪 文義	近藤 正	高橋 佑
荒井 弘美	重泉 篤史	本間 康弘	中野 克之	高橋 誉	最上 正人	石田 勇介	佐藤 正尚
下條 幸二	廣川 正通	小谷 尚志	高橋 道映	田中 弼	佐藤 浩晃	村山 和恵	小林 達
長谷川 久晃	酒井 栄一郎	佐藤 聡	小林 守	阿部 欣也	杉谷 浩一	榊原 由貴	金田 季之
宮島 泰	高崎 俊哉	高橋 裕作	小平 勝志	藤田 正明	池田 一史	宮嶋 一博	小嶋 孝代
駒形 正明	阿部 貴美	大沼 成勝	丸山 智史	岡田 龍	小野 隆樹	田邊 威	高橋 大介
伊藤 雅明	秋堂 春美	長谷川 克弥	山口 穰	田中 湖雄	牧 利幸	伊藤 正弘	本間 春治
早川 重男	樋口 正仁	伊積 豊	小林 稔	吉田 たかし	山本 善政	小島 隆	小林 松一
高橋 昭博	高橋 眞代	峰尾 昌明	大森 武士				